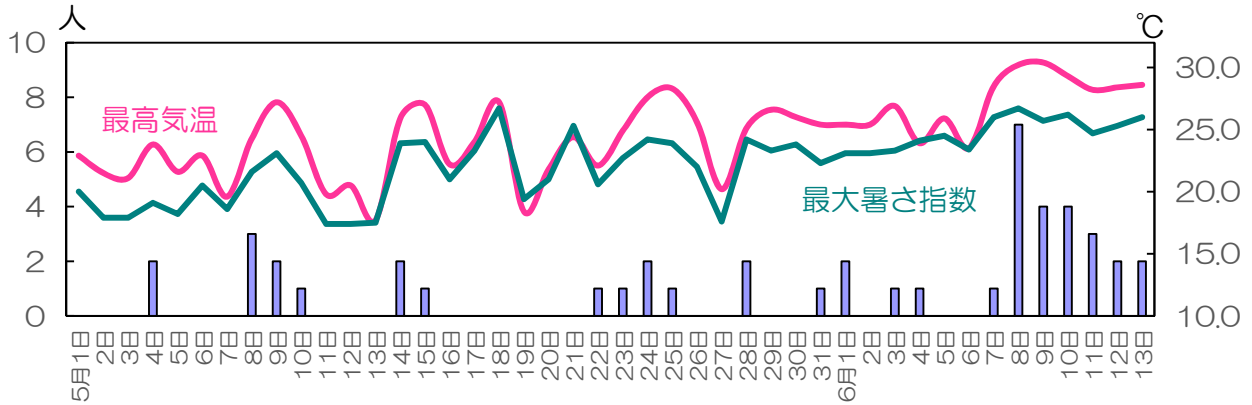


# 熱中症情報

## <搬送数>

令和3年5月1日～6月13日までの搬送数（消防局データを使用）は、計46人（5月19人、6月27人）でした。6月に入り、30℃を超える日があり、搬送数も増加傾向です。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



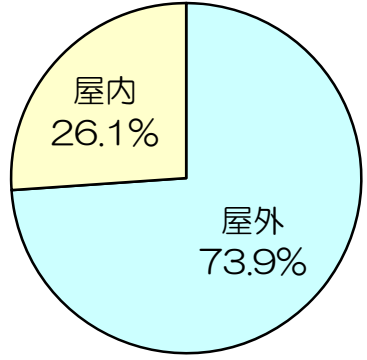
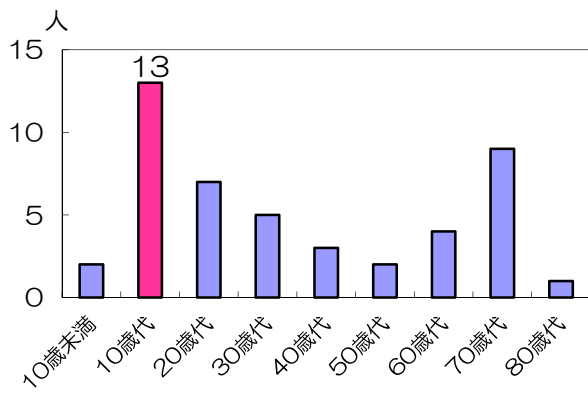
**暑さ指数とは?** 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

## <年齢別>

10歳代が13人(28.3%)で最も多く、そのうち11人がスポーツ中やその後に発症していました。

## <発生場所>

屋外73.9%、屋内26.1%で、屋外での発生が多くなっています。



## <重症度>

軽症73.9%、中等症26.1%でした。高齢者(65歳以上)の中等症の割合が50.0%と、高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

